宮崎県立西都原考古博物館・大分県立埋蔵文化財センター合同企画展

「豊と日向 日出る国の考古学」ここがみどころ　No.5

❺ 豊の逸品　下山古墳の鉄鋌　～古墳時代～

多量に出土した鉄鋌

出土地　：下山古墳（大分県臼杵市）
時　代　：古墳時代中期
所　蔵　：大分県臼杵市教育委員会

下山古墳は、臼杵湾を望む位置にある全長 68ｍの 前方後円墳 であり、５世紀後半頃の築造とされています。埋葬施設である後円部の組合式 家形石棺 の中には、鏡や鉄製武具・農具、玉類等が納められており、棺外からは、多量の鉄鋌が出土しました。

鉄鋌は、短冊形に規格化された鉄の延べ板であり、朝鮮半島で製作されたと考えられています。その性格は、鉄素材そのものである、あるいは権威を示すものとされており、鉄鋌は、古墳時代における鉄の生産や流通を考える上で重要な資料と言えます。下山古墳出土品には、鉄鋌を括っていた紐の痕跡も残っています。

なお、下山古墳は、1957 年に国指定史跡となっています。